



# コンフィギュレーションファイルの取り扱い

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 構成ファイルについて, [on page 1](#)
- 構成ファイルに関する注意事項と制限事項 (2 ページ)
- コンフィギュレーション ファイルの管理, [on page 2](#)
- 構成のアーカイブと構成ログ (15 ページ)
- デバイス コンフィギュレーションの確認, [on page 20](#)
- コンフィギュレーション ファイルを使用した作業例, [on page 21](#)

## 構成ファイルについて

構成ファイルには、Cisco NX-OS デバイス上の機能を構成するために使用される Cisco NX-OS ソフトウェアのコマンドが保存されます。コマンドは、システムを起動したとき (startup-config ファイルから)、または構成モードで CLI にコマンドを入力したときに、Cisco NX-OS ソフトウェアによって解析 (変換および実行) されます。

スタートアップ構成ファイルを変更するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用してスタートアップ構成に実行構成ファイルを保存するか、ファイルサーバーからスタートアップ構成へ構成ファイルをコピーします。

## コンフィギュレーションファイルのタイプ

Cisco NX-OS ソフトウェアの構成ファイルには、実行構成とスタートアップ構成の 2 種類があります。デバイスは、その起動時にスタートアップコンフィギュレーション (startup-config) を使用して、ソフトウェア機能を設定します。実行コンフィギュレーション (running-config) には、スタートアップコンフィギュレーションファイルに対して行った現在の変更が保存されます。2 つのコンフィギュレーションファイルは別々の設定にできます。デバイス構成は、永続的ではなく一時的に変更することもできます。この場合、グローバルコンフィギュレーションモードでコマンドを使用することにより、実行コンフィギュレーションを変更しますが、スタートアップ コンフィギュレーションにはその変更を保存しないようにします。

## 構成ファイルに関する注意事項と制限事項

実行構成を変更するには、**configure terminal** コマンドを使用して、グローバル構成モードを開始します。Cisco NX-OS 構成モードの使用時には、通常コマンドはすぐに実行され、入力直後または構成モードを終了した時点で実行構成ファイルに保存されます。

スタートアップコンフィギュレーションファイルを変更するには、実行コンフィギュレーションファイルをスタートアップコンフィギュレーションに保存するか、コンフィギュレーションファイルをファイル サーバからスタートアップコンフィギュレーションにダウンロードします。

### Related Topics

[実行コンフィギュレーションのスタートアップコンフィギュレーションへの保存 \(2 ページ\)](#)

[リモート サーバからのスタートアップコンフィギュレーションのダウンロード \(5 ページ\)](#)

## 構成ファイルに関する注意事項と制限事項

構成ファイルに関する注意事項と制限事項は次のとおりです。

- NX-OS 7.0(3)I7(4) 以降、5 ~ 60 秒の遅延後に再起動を有効にする **reload timer** コマンドがサポートされています。

## コンフィギュレーション ファイルの管理

ここでは、コンフィギュレーション ファイルの管理方法について説明します。

### 実行コンフィギュレーションのスタートアップコンフィギュレーションへの保存

実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションに保存することで、次にデバイスをリロードするときのために変更を保存できます。

#### SUMMARY STEPS

1. (Optional) **show running-config**
2. **copy running-config startup-config**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) <b>show running-config</b>  <b>Example:</b> switch# show running-config	実行設定を表示します。
ステップ 2	<b>copy running-config startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## リモート サーバへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

内部メモリに保存されたコンフィギュレーション ファイルをリモート サーバにコピーして、バックアップとして使用したり、他の Cisco NX-OS デバイスを設定するために使用したりすることができます。

## SUMMARY STEPS

1. **copy schemerunning-configserver://[url/]filename /**
2. **copy schemestartup-configserver://[url/]filename /**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>copy schemerunning-configserver://[url/]filename /</b>  <b>Example:</b> switch# copy running-config tftp://10.10.1.1/sw1-run-config.bak	リモート サーバへ実行コンフィギュレーション ファイルをコピーします。  <i>scheme</i> 引数に対して、 <b>tftp:</b> を入力するか、 <b>ftp:</b> 、 <b>scp:</b> 、または <b>sftp:</b> を入力します。 <i>server</i> 引数は、リモート サーバのアドレスまたは名前であり、 <i>url</i> 引数はリモート サーバにあるソース ファイルへのパスです。  <i>server</i> 、 <i>url</i> 、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。
ステップ 2	<b>copy schemestartup-configserver://[url/]filename /</b>  <b>Example:</b> switch# copy startup-config tftp://10.10.1.1/sw1-start-config.bak	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルをリモート サーバにコピーします。  <i>scheme</i> 引数に対して、 <b>tftp:</b> を入力するか、 <b>ftp:</b> 、 <b>scp:</b> 、または <b>sftp:</b> を入力します。 <i>server</i> 引数は、リ

## リモート サーバからの実行コンフィギュレーションのダウンロード

Command or Action	Purpose
	<p>モート サーバのアドレスまたは名前であり、<i>url</i> 引数はリモート サーバにあるソース ファイルへのパスです。</p> <p><i>server</i>、<i>url</i>、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。</p>

### Example

次に、リモート サーバへ構成ファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy running-config
tftp://10.10.1.1/sw1-run-config.bak
switch# copy startup-config
tftp://10.10.1.1/sw1-start-config.bak
```

## リモート サーバからの実行コンフィギュレーションのダウンロード

別の Cisco NX-OS デバイスで作成し、リモート サーバにアップロードしたコンフィギュレーション ファイルを使用して、Cisco NX-OS デバイスを設定できます。このファイルを、リモート サーバから TFTP、FTP、Secure Copy (SCP) を使用してデバイスに、または Secure Shell FTP (SFTP) を使用して実行コンフィギュレーションにダウンロードします。

### Before you begin

ダウンロードするコンフィギュレーション ファイルが、リモート サーバの正しいディレクトリにあることを確認します。

ファイルに対する許可が正しく設定されていることを確認します。ファイルのアクセス権は、誰でも読み取り可能に設定されている必要があります。

お使いのデバイスからリモート サーバへのルートを確保します。サブネット間でトラフィックをルーティングするルータまたはデフォルト ゲートウェイがない場合、お使いのデバイスとリモート サーバは同じサブネットワーク内にある必要があります。

**ping** を使用してリモート サーバへの接続を確認します。または **ping6** を参照してください。

### SUMMARY STEPS

1. **copy scheme://server/[url]/filename running-config**
2. (Optional) **show running-config**
3. (Optional) **copy running-config startup-config**
4. (Optional) **show startup-config**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>copy scheme://server/[url]/filename running-config</b>  <b>Example:</b> switch# copy tftp://10.10.1.1/my-config running-config	リモート サーバから実行コンフィギュレーション ファイルをダウンロードします。  <i>scheme</i> 引数に対して、 <b>tftp:</b> を入力するか、 <b>ftp:</b> 、 <b>sep:</b> 、または <b>sftp:</b> を入力します。 <i>server</i> 引数は、リモート サーバのアドレスまたは名前であり、 <i>url</i> 引数はリモート サーバにあるソース ファイルへのパスです。  <i>server</i> 、 <i>url</i> 、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。
ステップ 2	(Optional) <b>show running-config</b>  <b>Example:</b> switch# show running-config	実行設定を表示します。
ステップ 3	(Optional) <b>copy running-config startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
ステップ 4	(Optional) <b>show startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

## Related Topics

[ファイルのコピー](#)

## リモート サーバからのスタートアップ コンフィギュレーションのダウンロード

別の Cisco NX-OS デバイスで作成し、リモート サーバにアップロードしたコンフィギュレーション ファイルを使用して、Cisco NX-OS デバイスを設定できます。このファイルを、リモート サーバから TFTP、FTP、Secure Copy (SCP) を使用してデバイスに、または Secure Shell FTP (SFTP) を使用してスタートアップ コンフィギュレーションにダウンロードします。



**Caution** この手順を実行すると、Cisco NX-OS デバイス上のすべてのトラフィックが中断されます。

## リモート サーバからのスタートアップ コンフィギュレーションのダウンロード

### Before you begin

コンソール ポート上のセッションにログインします。

ダウンロードするコンフィギュレーション ファイルが、リモート サーバの正しいディレクトリにあることを確認します。

ファイルに対する許可が正しく設定されていることを確認します。ファイルのアクセス権は、誰でも読み取り可能に設定されている必要があります。

お使いのデバイスからリモート サーバへのルートを確保します。サブネット間でトラフィックをルーティングするルータまたはデフォルト ゲートウェイがない場合、お使いのデバイストリミット リモート サーバは同じサブネットワーク内にある必要があります。

**ping** を使用してリモート サーバへの接続を確認します。または **ping6** を参照してください。

### SUMMARY STEPS

1. **write erase**
2. **reload**
3. **copy scheme://server/[url [/filename running-config**
4. **copy running-config startup-config**
5. (Optional) **show startup-config**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>write erase</b> <b>Example:</b> <pre>switch# write erase</pre>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルを削除します。
ステップ 2	<b>reload</b> <b>Example:</b> <pre>switch# reload This command will reboot the system. (y/n)? [n] y ... Enter the password for "admin": &lt;password&gt; Confirm the password for "admin": &lt;password&gt; ... Would you like to enter the basic configuration dialog (yes/no): n switch#</pre>	Cisco NX-OS デバイスをリロードします。 <b>Note</b> デバイスを設定するために、セットアップ ユーティリティを使用しないでください。
ステップ 3	<b>copy scheme://server/[url [/filename running-config</b> <b>Example:</b> <pre>switch# copy tftp://10.10.1.1/my-config running-config</pre>	リモート サーバから実行 コンフィギュレーション ファイルをダウンロードします。 <i>scheme</i> 引数に対して、 <b>tftp:</b> を入力するか、 <b>ftp:</b> 、 <b>scp:</b> 、または <b>sftp:</b> を入力します。 <i>server</i> 引数は、リモート サーバの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名です。

	Command or Action	Purpose
		モート サーバのアドレスまたは名前であり、 <i>url</i> 引数はリモート サーバにあるソース ファイルへのパスです。  <i>server</i> 、 <i>url</i> 、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。
ステップ 4	<b>copy running-config startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーション ファイルをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルとして保存します。
ステップ 5	(Optional) <b>show startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# show startup-config	実行設定を表示します。

**Related Topics**[ファイルのコピー](#)

## 外部フラッシュ メモリ デバイスへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

後で使用するために、コンフィギュレーション ファイルをバックアップとして外部フラッシュ メモリ デバイスにコピーできます。

**Before you begin**

外部フラッシュ メモリ デバイスを、アクティブなスーパーバイザ モジュールに挿入します。

**SUMMARY STEPS**

1. (Optional) **dir {usb1: | usb2:} [directory/]**
2. **copy running-config {usb1: | usb2:} [directory/] [filename]**
3. **copy startup-config {usb1: | usb2:} [directory/] [filename]**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) <b>dir {usb1:   usb2:} [directory/]</b>  <b>Example:</b> switch# dir usb1:	外部フラッシュ メモリ デバイス上のファイルを表示します。

## ■ 外部フラッシュ メモリ デバイスからの実行構成のコピー

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
ステップ 2	<b>copy running-config {usb1:   usb2:}[directory]/filename</b>  <b>Example:</b>  switch# copy running-config usb1:dsn-running-config.cfg	外部フラッシュ メモリ デバイスに実行コンフィギュレーションをコピーします。 <i>filename</i> の引数では大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	<b>copy startup-config {usb1:   usb2:}[directory]/filename</b>  <b>Example:</b>  switch# copy startup-config usb1:dsn-startup-config.cfg	外部フラッシュ メモリ デバイスにスタートアップコンフィギュレーションをコピーします。 <i>filename</i> の引数では大文字と小文字が区別されます。

**Related Topics**[ファイルのコピー](#)

## 外部フラッシュ メモリ デバイスからの実行構成のコピー

別の Cisco NX-OS デバイスで作成し、外部フラッシュ メモリ デバイスに保存された構成ファイルをコピーすることで、デバイスを構成できます。

**Before you begin**

外部フラッシュ メモリ デバイスを、アクティブなスーパーバイザ モジュールに挿入します。

**SUMMARY STEPS**

1. (Optional) **dir {usb1: | usb2:}[directory]/**
2. **copy {usb1: | usb2:}[directory]/filename running-config**
3. (Optional) **show running-config**
4. (Optional) **copy running-config startup-config**
5. (Optional) **show startup-config**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
ステップ 1	(Optional) <b>dir {usb1:   usb2:}[directory]/</b>  <b>Example:</b>  switch# dir usb1:	外部フラッシュ メモリ デバイス上のファイルを表示します。
ステップ 2	<b>copy {usb1:   usb2:}[directory]/filename running-config</b>  <b>Example:</b>  switch# copy usb1:dsn-config.cfg running-config	外部フラッシュ メモリ デバイスから実行コンフィギュレーションをコピーします。 <i>filename</i> の引数では大文字と小文字が区別されます。

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
<b>ステップ 3</b>	(Optional) <b>show running-config</b>  <b>Example:</b> switch# show running-config	実行設定を表示します。
<b>ステップ 4</b>	(Optional) <b>copy running-config startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。
<b>ステップ 5</b>	(Optional) <b>show startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションを表示します。

**Related Topics**[ファイルのコピー](#)

## 外部フラッシュ メモリ デバイスからのスタートアップ構成のコピー

デバイス上のスタートアップ構成を復元するには、外部フラッシュ メモリ デバイスに保存された新しいスタートアップ構成ファイルをダウンロードします。

**Before you begin**

外部フラッシュ メモリ デバイスを、アクティブなスーパーバイザ モジュールに挿入します。

**SUMMARY STEPS**

1. (Optional) **dir {usb1: | usb2:}[directory]/**
2. **copy {usb1: | usb2:}[directory /]filename startup-config**
3. (Optional) **show startup-config**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
<b>ステップ 1</b>	(Optional) <b>dir {usb1:   usb2:}[directory]/</b>  <b>Example:</b> switch# dir usb1:	外部フラッシュ メモリ デバイス上のファイルを表示します。
<b>ステップ 2</b>	<b>copy {usb1:   usb2:}[directory /]filename startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# copy usb1:dsn-config.cfg startup-config	外部フラッシュ メモリ デバイスからスタートアップコンフィギュレーションをコピーします。filename の引数では大文字と小文字が区別されます。

## 内部ファイルシステムへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	(Optional) <b>show startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションを表示します。

### Related Topics

[ファイルのコピー](#)

## 内部ファイルシステムへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

後で使用するために、コンフィギュレーション ファイルをバックアップとして内部メモリにコピーできます。

### SUMMARY STEPS

1. **copy running-config [filesystem:][directory/] | [directory/]filename**
2. **copy startup-config [filesystem:][directory/] | [directory/]filename**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>copy running-config [filesystem:][directory/]   [directory/]filename</b>  <b>Example:</b> switch# copy running-config bootflash:sw1-run-config.bak	実行コンフィギュレーション ファイルを内部メモリにコピーします。  <i>filesystem</i> 、 <i>directory</i> 、および <i>filename</i> の各引数では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	<b>copy startup-config [filesystem:][directory/]   [directory/]filename</b>  <b>Example:</b> switch# copy startup-config bootflash:sw1-start-config.bak	スタートアップコンフィギュレーション ファイルを内部メモリにコピーします。  <i>filesystem</i> 、 <i>directory</i> 、および <i>filename</i> の各引数では、大文字と小文字が区別されます。

### Related Topics

[ファイルのコピー](#)

## 以前の構成へのロールバック

メモリ破損などの障害が発生し、バックアップされたバージョンからコンフィギュレーションを復元することが必要になる場合があります。

**Note**

**copy running-config startup-config** コマンドを実行するたびに、バイナリ ファイルが作成され、ASCII ファイルが更新されます。有効なバイナリ コンフィギュレーション ファイルを使用すると、ブート全体の時間が大幅に短縮されます。バイナリ ファイルはアップロードできませんが、その内容を使用して既存のスタートアップ コンフィギュレーションを上書きできます。この項で説明している **write erase** コマンドがバイナリ ファイルをクリアします。

**SUMMARY STEPS**

1. **write erase**
2. **reload**
3. **copy configuration-file running-configuration**
4. **copy running-config startup-config**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
ステップ 1	<b>write erase</b>  <b>Example:</b> switch# write erase	スイッチの現在のコンフィギュレーションを削除します。
ステップ 2	<b>reload</b>  <b>Example:</b> switch# reload	デバイスを再起動します。デバイスを起動して実行できるように、nx-os イメージ ファイルを提供するように求められます。
ステップ 3	<b>copy configuration-file running-configuration</b>  <b>Example:</b> switch# copy bootflash:start-config.bak running-configuration	以前に保存されたコンフィギュレーション ファイルを実行 コンフィギュレーション にコピーします。  <b>Note</b> <i>configuration-file</i> ファイル名引数では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 4	<b>copy running-config startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# copy running-config startup-config	実行 コンフィギュレーション をスタートアップ コンフィギュレーション にコピーします。

**存在しないモジュールのコンフィギュレーションの削除**

シャーシから I/O モジュールを取り外す場合は、実行 コンフィギュレーション からそのモジュールのコンフィギュレーションを削除することもできます。

**Note**

シャーシの空のスロットに対するコンフィギュレーションのみを削除できます。

**Before you begin**

シャーシから I/O モジュールを取り外します。

**SUMMARY STEPS**

1. (Optional) **show hardware**
2. **purge module slot running-config**
3. (Optional) **copy running-config startup-config**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
ステップ 1	(Optional) <b>show hardware</b>  <b>Example:</b> switch# show hardware	デバイスに取り付けられたハードウェアを表示します。
ステップ 2	<b>purge module slot running-config</b>  <b>Example:</b> switch# purge module 3 running-config	実行コンフィギュレーションから存在しないモジュールのコンフィギュレーションを削除します。
ステップ 3	(Optional) <b>copy running-config startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

**構成の削除**

デバイス上の構成を削除して、工場出荷時のデフォルト値に戻すことができます。「構成」は、「show startup」で表示されるスタートアップ構成を指します。他の内部アプリケーションまたはプロセスの状態はクリアされません。

構成の削除機能は、Nexus 9200-X、Nexus 9300-FX、-FX2、-FX3、および Nexus 9500 シリーズスイッチでサポートされています。

デバイス上の永続メモリに保存された次のコンフィギュレーションファイルを削除できます。

- 新興企業
- Boot
- [デバッグ (Debug) ]

**write erase** コマンドを使用すると、次のものを除くすべてのスタートアップ構成が削除されます。

- ブート変数定義
- 次のものを含む mgmt0 インターフェイス上の IPv4 および IPv6 構成：
  - アドレス
  - サブネットマスク
  - 管理 VRF のデフォルト ゲートウェイ/ルート

mgmt0 インターフェイスのブート変数定義と IPv4 構成を削除するには、**write erase boot** コマンドを使用します。パッチ rpm、サードパーティの rpm、構成以外の /etc ディレクトリ内のアプリケーション構成など、すべてのアプリケーション永続性ファイルを削除するには、「install reset」を使用します。このコマンドは、7.0(3)I6(1) リリースで追加されました。



**Note** 管理 VRF に複数の IPv6 デフォルトルートが存在する場合、「copy rs」を使用する直前に管理 VRF の **show ipv6 static-route** コマンドで最初に表示されたデフォルトルートは、**write erase** および **reload** 後に復元されます。



**Note** **write erase** を入力した後 コマンドで、ブレークアウト構成を適用するには、ASCII 構成を 2 回リロードする必要があります。

## SUMMARY STEPS

1. **write erase [boot | debug]**

## DETAILED STEPS

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<p><b>write erase [boot   debug]</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>switch# write erase Warning: This command will erase the startup-configuration. Do you wish to proceed anyway? (y/n)  [n] y</pre>	<p>永続メモリのコンフィギュレーションを削除します。デフォルトのアクションにより、スタートコンフィギュレーションが削除されます。</p> <p>The <b>boot</b> オプションを使用すると、mgmt0 インターフェイスのブート変数定義と IPv4 構成が削除されます。</p> <p>The <b>debug</b> オプションを使用すると、デバッグ構成が削除されます。</p>

## ■ 非アクティブなコンフィギュレーションのクリア

Command or Action	Purpose
	<p><b>Note</b> mgmt0 インターフェイスで複数の IPv6 アドレスを設定すると、<b>show ipv6 interface &lt;intf&gt;</b> コマンドで「copy r s」を使用する前に最初に表示される IPv6 アドレスは、書き込み消去およびリロード時に復元されます。</p> <p><b>Note</b> 実行構成ファイルは、このコマンドによって影響を受けません。</p>

## 非アクティブなコンフィギュレーションのクリア

非アクティブな QoS と ACL のコンフィギュレーションの両方またはいずれか一方をクリアできます。

## 手順の概要

1. (任意) **show running-config** タイプ **inactive-if-config**
2. **clear inactive-config policy**
3. (任意) **show inactive-if-config log**

## 手順の詳細

## 手順

コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b> (任意) <b>show running-config</b> タイプ <b>inactive-if-config</b> 例： <pre># show running-config ipqos inactive-if-config</pre>	非アクティブなアクセス制御リスト (ACL) または Quality of Service (QoS) の構成を表示します。 type 引数の値は、 <b>aclmgr</b> および <b>ipqos</b> です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>aclmgr</b> : aclmgr の非アクティブな構成を表示します。</li> <li>• <b>ipqos</b> : qosmgr の非アクティブな構成を表示します。</li> </ul>
<b>ステップ 2</b> <b>clear inactive-config policy</b> 例： <pre># clear inactive-config qos clear qos inactive config Inactive if config for QoS manager is saved at/bootflash/qos_inactive_if_config.cfg for vdc</pre>	非アクティブなコンフィギュレーションをクリアします。 policy 引数の値は、 <b>qos</b> および <b>acl</b> です。 次に、値について説明します。

	コマンドまたはアクション	目的
	default you can see the log file @ show inactive-if-config log	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>qos</b> : 非アクティブな QoS 構成をクリアします。</li> <li>• <b>acl</b> : 非アクティブな ACL 構成をクリアします。</li> <li>• <b>acl qos</b> : 非アクティブな ACL 構成および非アクティブな QoS 構成をクリアします。</li> </ul>
ステップ 3	(任意) <b>show inactive-if-config log</b>  例： # show inactive-if-config log	非アクティブなコンフィギュレーションをクリアするのに使用されたコマンドを表示します。

## 構成のアーカイブと構成ログ

このセクションには、構成アーカイブと構成ログに関する情報が含まれています。

### 構成アーカイブの詳細

構成アーカイブは **configure replace** コマンドにより提供される構成のロールバック機能を強化するために、構成ファイルのアーカイブの保存、整理、管理を行うことを目的としたメカニズムです。構成アーカイブの導入前にも、実行構成のコピーを **copy running-config destination-url** コマンドを使用して保存し、ローカルやリモートに置換ファイルを保管できました。ただし、この方法ではファイルの自動管理を行うことはできませんでした。一方、構成の置換とロールバック機能では、実行中の構成のコピーを構成アーカイブに自動的に保存する機能を備えています。アーカイブされたファイルは構成のチェックポイントとして参照することができ、**configure replace** コマンドを使用して以前の構成状態に戻すために利用できます。

**archive config** コマンドを使用すると、Cisco IOS 構成を構成アーカイブに保存できます。その場合、標準のディレクトリとファイル名のプレフィックスが使用され、バージョン番号（およびオプションでタイムスタンプ）が自動的に付加されます。バージョン番号は連続したファイルを保存するごとに、1つずつ大きくなります。この機能により、保存した構成ファイルを一貫して識別できます。アーカイブに保存する実行コンフィギュレーションの数は指定することができます。アーカイブ内のファイル数が上限値に達すると、次に最新のファイルが保存されるときに、最も古いファイルが自動的に消去されます。**show archive** コマンドを使用すると、コンフィギュレーションアーカイブに保存されているすべてのコンフィギュレーションファイルに関する情報が表示されます。

構成ファイルを保存する構成アーカイブは、**configure replace** コマンドで使用することによって、ブートフラッシュ、FTP、TFTP のファイルシステム上に配置できます。



(注) この機能の TFTP および FTP は、VRF 管理を使用します。

## ■ 設定アーカイブの特性の設定

# 設定アーカイブの特性の設定

**archive config** コマンドを使用する前に、コンフィギュレーションアーカイブを設定しておく必要があります。構成アーカイブの特性を構成するには、次の作業を実行します。

## 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **archive**
3. **path *url***
4. **maximum *number***
5. **time-period *minutes***
6. **write-memory**
7. **archive config**
8. (任意) **show archive log config all**

## 手順の詳細

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： <pre>switch# configure terminal</pre>	グローバルコンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>archive</b> 例： <pre>switch(config)# archive</pre>	アーカイブ構成モードを開始します。 (注) このコマンドは、Cisco Nexus 9300-FX、および -R シリーズ スイッチに適用されません。
ステップ 3	<b>path <i>url</i></b> 例： <pre>switch(config-archive)# path bootflash:myconfig</pre>	構成アーカイブに、ファイルのディレクトリとファイル名プレフィックスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ハードウェアプラットフォームによって、ファイルシステムの名前は、例に示しているものとは異なる可能性があります。</li> </ul> (注) パスのところでファイルの代わりにディレクトリを指定する場合、ディレクトリ名は <b>path flash:/directory/</b> のように後ろにスラッシュを付ける必要があります。このスラッシュはファイル名の後ろではありません。ディレクトリを指定する場合にだけ使います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>maximum</b> <i>number</i> 例： switch(config-archive) # <b>maximum</b> 14	(任意) 設定アーカイブに保存する実行設定のアーカイブ ファイルの最大数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>number</i>は構成アーカイブに保存できる実行構成のアーカイブ ファイル数の上限値を示します。指定できる範囲は 1 ~ 14 です。デフォルトは 10 です。</li> </ul> <p>(注)</p> このコマンドを使用する前に、 <b>path</b> コマンドを設定して、構成アーカイブの位置とファイル名プレフィックスを指定しておく必要があります。
ステップ 5	<b>time-period</b> <i>minutes</i> 例： switch(config-archive) # <b>time-period</b> 10	(任意) コンフィギュレーションアーカイブに現在実行中のコンフィギュレーションのアーカイブ ファイルを自動保存する間隔を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 設定アーカイブに現在の実行設定のアーカイブ ファイルをどれほどの頻度で自動保存するかを、<i>minutes</i> 引数により分単位で指定します。</li> </ul> <p>(注)</p> このコマンドを使用する前に、 <b>path</b> コマンドを設定して、コンフィギュレーションアーカイブの位置とファイル名プレフィックスを指定しておく必要があります。
ステップ 6	<b>write-memory</b> 例： switch(config-archive) # <b>write-memory</b>	コマンドを有効にします。この機能はデフォルトではディセーブルになっています。このコマンドを入力すると、コマンド <b>copy rs</b> の実行時にアーカイブが発生します。
ステップ 7	<b>archive config</b> 例： switch(config-archive) # <b>archive config</b>	現在の実行設定ファイルを設定アーカイブに保存します。 <p>(注)</p> <b>archive config</b> コマンドを使用する前に、 <b>path</b> コマンドを構成する必要があります。
ステップ 8	(任意) <b>show archive log config all</b> 例： switch# <b>show archive log config all</b>	すべてのユーザーの構成ログ エントリを表示します。

## 構成ログに関する情報

構成変更ログは、アカウンティングログのデータを使用して、実行構成に加えられた変更を追跡します。この構成ログは、CLI または HTTP のみを介して開始される変更を追跡します。アクションルーチンの呼び出しが発生する完全なコマンドが記録されます。次の種類の入力はログに記録されません。

- 結果的に構文エラー メッセージが表示されるコマンド
- デバイス ヘルプ システムを呼び出す一部のコマンド

この構成ログは、CLI または HTTP のみを介して開始される変更を追跡します。実行される各設定コマンドでは次の情報が記録されます。

- 設定変更のシーケンス番号
- コマンドが実行された行
- コマンドを実行したユーザーの名前
- 実行されたコマンド

**show archive log config all** コマンドを使用して、構成ログからの情報を表示できます。

実行される各設定コマンドでは次の情報が記録されます。

- 実行されたコマンド
- コマンドを実行したユーザーの名前
- 設定変更のシーケンス番号

**show archive log config** コマンドを使用して、構成ログからの情報を表示できます。

## 構成ログ エントリの表示

構成ログエントリを表示するために、構成変更ログは **show archive log config all** コマンドを提供します。

### 手順の概要

- switch# **show archive log config all**
- switch# **show archive log config user *username***
- switch# **show archive log config user *username* first-index *start-number* [last-index *end-number*]**

## 手順の詳細

## 手順

ステップ1 switch# **show archive log config all**

すべてのユーザーの構成ログ エントリを表示します。

例：

```
switch# show archive log config all
```

INDEX	LINE	USER	LOGGED COMMAND
1	console0	user01	logging console 1
2	console0	user01	logging monitor 2
3	console0	user02	system default switchport shutdown
4	console0	user02	interface mgmt0
5	console0	user02	no shutdown

ステップ2 switch# **show archive log config user username**

指定されたユーザー名の構成ログ エントリを表示します。

例：

次の例では、指定されたユーザー名の構成ログ エントリを表示します。

```
switch# show archive log config user user02
```

INDEX	LINE	USER	LOGGED COMMAND
3	console0	user02	system default switchport shutdown
4	console0	user02	interface mgmt0
5	console0	user02	no shutdown

ステップ3 switch# **show archive log config user username first-index start-number [last-index end-number ]**

構成ログ エントリをインデックス番号で表示します。オプションの last-index を指定する場合、指定したユーザーの開始番号から終了番号までの範囲のインデックス番号を持つすべてのログエントリが表示されます。

例：

次の例では、ユーザー名 user02 のユーザーの構成ログ エントリ番号 4 および 5 を表示します。開始インデックスと終了インデックスの範囲は 1 ~ 2000000000 です。

```
switch# show archive log config user user02 first-index 4 last-index 5
Last Log cleared/wrapped time is : Wed Oct 19 00:53:08 2016
```

INDEX	LINE	USER	LOGGED COMMAND
4	console0	user02	interface mgmt0
5	console0	user02	no shutdown

# デバイス コンフィギュレーションの確認

構成を確認するためには、次のいずれかのコマンドを使用します。

コマンド	目的
<b>show running-config [ [exclude] command ] [sanitized]</b>	<p>現在の実行コンフィギュレーションまたはそのコンフィギュレーションのサブセットの内容を表示するには、該当するモードで <b>show running-config</b> コマンドを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>exclude</b> : (任意) 特定のコンフィギュレーションを表示から除外します。</li> <li>• <b>exclude</b> キーワードのあとに <i>command</i> 引数を指定し、表示から特定のコンフィギュレーションを除外します。</li> <li>• コマンド: (任意) 1つのコマンドのみを、または指定のコマンドノード下で使用可能なコマンドのサブセットを表示します。</li> <li>• <b>sanitized</b> : (任意) 安全な配布と分析のためにサニタイズされたコンフィギュレーションを表示します。</li> </ul> <p>Cisco NX-OS リリース 10.3(2)F 以降、<b>sanitized</b> キーワードが Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでサポートされています。</p>
<b>show startup-config</b>	<p>スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。</p> <p><b>Note</b> レイヤ 3 ベースの機能構成が running-config で無効になっている場合、<b>show startup-config</b> コマンドはそれらを表示しません。ただし、<b>copy running startup</b> コマンドが実行されるまで、構成はスタートアップ PSS にそのまま残ります。</p>
<b>show time-stamp running-config last-changed</b>	実行構成が最後に変更されたときのタイムスタンプを表示します。

次に、**show running-config** コマンドで **sanitized** キーワードを指定した場合の出力例を示します。サニタイズされた構成は、構成の一部の詳細を公開せずに、構成を共有するために使用できます。

このオプションは、実行構成出力の機密ワードを **<removed>** キーワードによりマスクします。

```
switch# show running-config sanitized

!Command: show running-config sanitized
!Running configuration last done at: Wed Oct 12 09:14:54 2022
!Time: Wed Oct 12 13:52:55 2022

version 10.3(2) Bios:version 07.69

username admin password 5 <removed> role network-admin
```

```

copp profile strict
snmp-server user admin network-admin auth md5 <removed> priv aes-128 <removed>
localizedV2key
rmon event 1 log trap <removed> description FATAL(1) owner PMON@FATAL
rmon event 2 log trap <removed> description CRITICAL(2) owner PMON@CRITICAL
rmon event 3 log trap <removed> description ERROR(3) owner PMON@ERROR
rmon event 4 log trap <removed> description WARNING(4) owner PMON@WARNING
rmon event 5 log trap <removed> description INFORMATION(5) owner PMON@INFO
--More--

```

## コンフィギュレーション ファイルを使用した作業例

ここでは、コンフィギュレーション ファイルを使用した作業例を示します。

### コンフィギュレーション ファイルのコピー

次に、NVRAM の既存のコンフィギュレーションの内容を上書きする例を示します。

```

switch# copy nvram:snapshot-config nvram:startup-config
Warning: this command is going to overwrite your current startup-config.
Do you wish to continue? {y/n} [y] y

```

次に、bootflash: ファイルシステムに実行コンフィギュレーションをコピーする例を示します。

```
switch# copy system:running-config bootflash:my-config
```

### コンフィギュレーション ファイルのバックアップ

この例では、bootflash: ファイルシステムにスタートアップ コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します（ASCII ファイル）。

```
switch# copy startup-config bootflash:my-config
```

この例では、TFTP サーバにスタートアップ コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します（ASCII ファイル）。

```
switch# copy startup-config tftp://172.16.10.100/my-config
```

この例では、bootflash: ファイルシステムに実行コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します（ASCII ファイル）。

```
switch# copy running-config bootflash:my-config
```

### 以前の構成へのロールバック

現在のコンフィギュレーションを以前保存したコンフィギュレーションのスナップショット コピーにロールバックするには、次の手順を実行する必要があります。

## ■ 以前の構成へのロールバック

1. **write erase** コマンドで、現在の実行イメージをクリアします を参照してください。
2. **reload** によりデバイスを再起動します を実行する前に、ユーザ名がフィギュレーション ファイルに指定されていることを確認してください。
3. **copy configuration-file running-configuration** コマンドで、以前保存した構成ファイルを実行構成にコピーします。
4. **copy running-config startup-config** コマンドを使用して、実行構成をスタートアップ構成にコピーします。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。